

船舶事故等調査報告書

平成22年10月28日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010門第109号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成22年4月22日 10時50分ごろ	
発生場所	福岡県苅田町苅田港 苅田港北防波堤灯台から真方位246° 2,300m 付近（概位 北緯33° 47.5′ 東経130° 59.4′）	
事故等調査の経過	平成22年7月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 押船 ジェイケイ、101トン 132770、株式会社ジェイ・ケイ・ライン B バージ <sup>ジェイケイ</sup> JK-1（非自航船）、約1,287トン なし、株式会社ジェイ・ケイ・ライン	
乗組員等に関する情報	A 船長A、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A なし B 船体右舷中央部船底に擦過傷	
事故等の経過	A船は、船長ほか4人が乗り組み、苅田港において、鉱滓約1,500トン積載したB船を押してA船押船列を構成し、苅田港本港岸壁4番に着岸するため南西進中、平成22年4月22日10時50分ごろ、岸壁前面から約200m沖の浅所に乗り揚げた。 A船押船列は、自力航行して着岸し、後日の入渠でB船の損傷を発見した。	
気象・海象	気象：天気 雨、風向 東、風力 4 海象：潮汐 上げ潮中央期	
その他の事項	喫水は、A船が、船首約2.8m、船尾約4.2m、B船が、船首約3.9m、船尾約4.1mであった。 岸壁前面の水路は、幅約240mで、沖側が浅く、約2.1mの浅所が存在している。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり A船押船列は、苅田港において着岸作業中、岸壁に向けて減速して変針する際、東からの風を左舷側に受け、右方に圧流されたものと考えられる。 船長Aは、錨の把駐力を増すために錨鎖を長く伸出する目的で、岸壁前面の水域幅を広くしようとし、浅所に接近して航行したものと考えられる。 船長Aは、風圧流の影響に対する判断が適切で

	なかつた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、A船押船列が、苧田港において着岸作業中、東からの風を左舷側に受けて右方に圧流されたため、B船が浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。